

文書から見る真岡木綿

はじめに
江戸時代の庶民の衣料・木綿

「特産品」としての真岡木綿

1 木綿の栽培・生産の広まり
日本人と木綿の関係

日本における木綿の栽培
三河国(愛知)、伊勢国(三重)、大和国(奈良)、和泉国(大阪)、摂津国(兵庫・大阪)

2 下野国での木綿生産と流通
下野国での栽培

木綿布ができるまで

江戸の大店の記録に残る真岡木綿

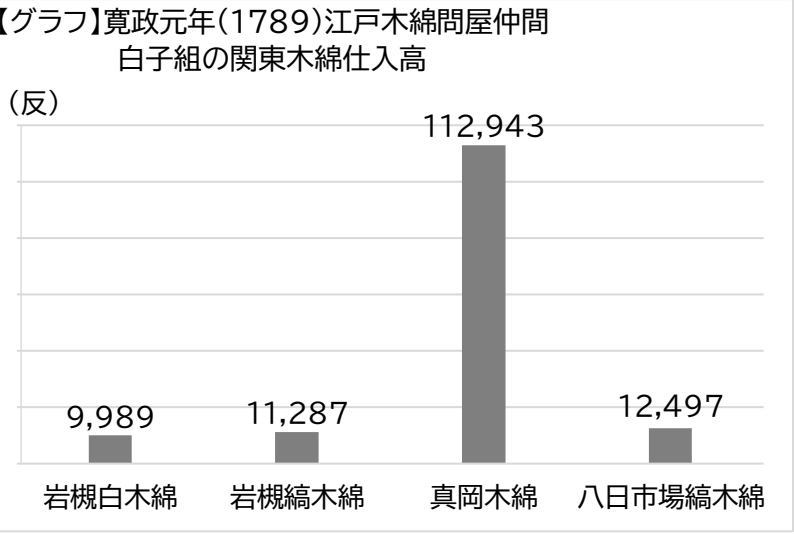
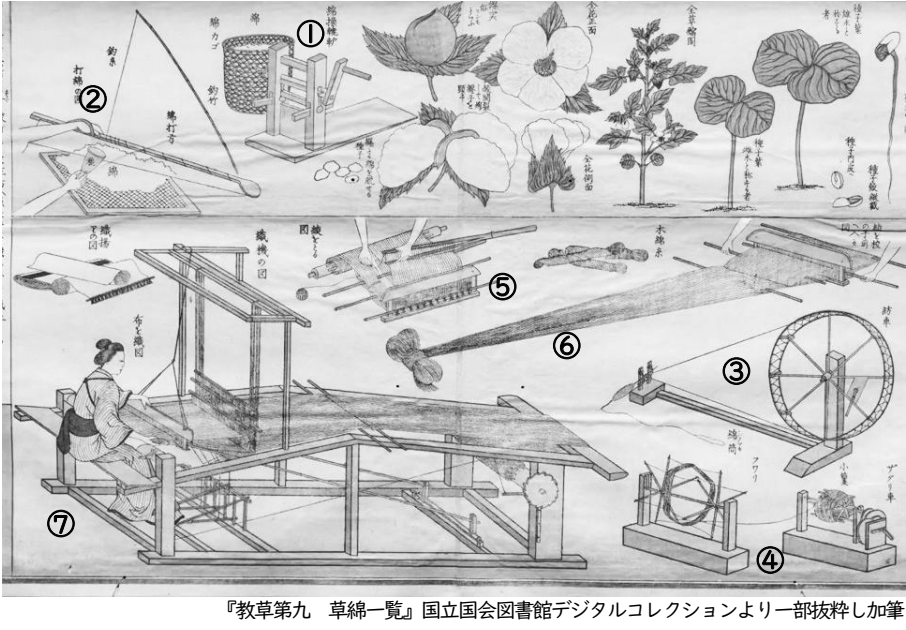
3 真岡木綿の隆盛と幕末
「真岡木綿」、江戸へ

生産者 仲買 買次問屋 江戸の店

幕末の動向と真岡

むすびに

【木綿布ができるまで（主な工程）】



【表1】村明細帳による木綿織記載の有無（『真岡市史』第3巻 近世史料編 28～29 頁より）

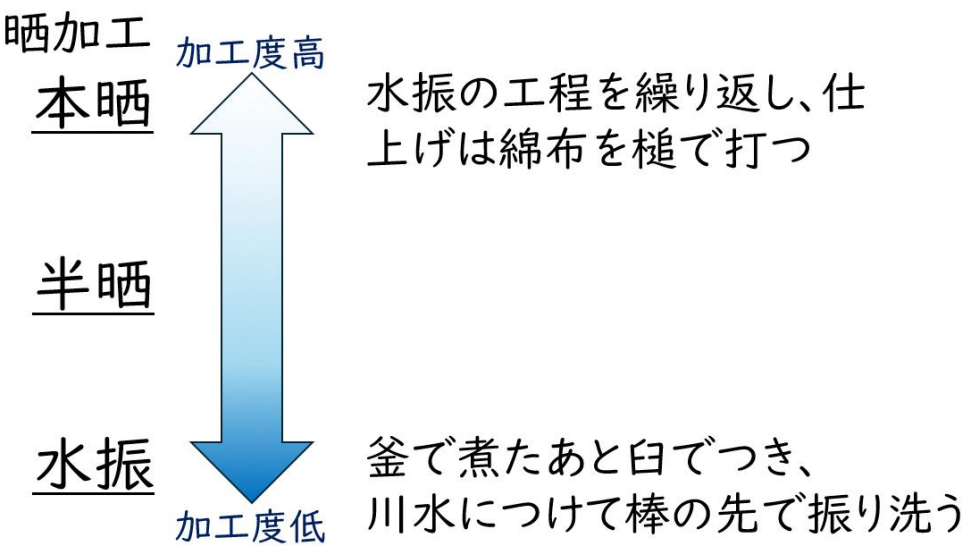
字名	木綿織	字名	木綿織	字名	木綿織	字名	木綿織
下高間木	◎	須 釜	○	中		大 沼	○
亀 山	○	道 祖 土		茅 堤	○		
根 本	○	下 籠 谷	×	柳 林	○		
青 谷	○	上大和田	◎	勝 瓜	○		
小 林	○	京 泉	◎	伊 勢 崎	○		
島	×	飯 貝	○	粕 田			
大 島	○	上 鷺 谷	○	若 旅	○		
沖 杉		八 木 岡	○	下 大 沼	○		

○は記載有、×は記載無、◎は真岡への出荷が確認できる、空欄は記載確認できない

【表2】 境河岸木綿・晒出荷数（『下総 境の生活史』史料編近世Ⅲ 940 頁を基に作成）

	「元文帳」		「明和帳」		「寛政帳」		「天保帳」	
	木綿	晒	木綿	晒	木綿	晒	木綿	晒
数	778 個	61 個	691 個	126 個	8 個	645 個	1 個	370 個
出荷元	結城町、下妻町、真壁町、下館町、真岡町、久下田村、鹿沼町、上三川村	久下田村、真岡町、下館町、鹿沼町、灰塚村	真岡町（塚田 弥 左 衛 門、小宅平七）、結城町、下館町、真壁町	真岡町、下館町	宇都宮町、笠間町	真岡町（塚田 弥 左 衛 門、小宅平七等）、下館町、真壁町、宇都宮町、笠間町	（倉持善兵衛）	真岡町（小宅平七、塚田 弥 惣 治 等）

【図1】



【参考文献】
寺内由佳『近世の衣料品流通と商人―地方都市宇都宮を中心に―』2022 年、山川出版社、永原慶二『新・木綿以前のこと』1990 年、中央公論社(『苧麻・絹・木綿の社会史』吉川弘文館に再収)、高崎寿『村落―その歴史と風土』1973 年、林玲子『日本の近世 5 商人の活動』1992 年、中央公論新社、小林博彦『下野の地場産業』1984 年、栃木県連合教育会
『真岡市史』、『栃木県史』、『茨城県史料』、『下総 境の生活史 史料編 近世Ⅲ』、笹間良彦著画『大江戸復元図鑑〈庶民編〉』遊子館、2003年